

特集

「社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が生かされる教育の推進」

＜教育課程＞研究指定校実践報告

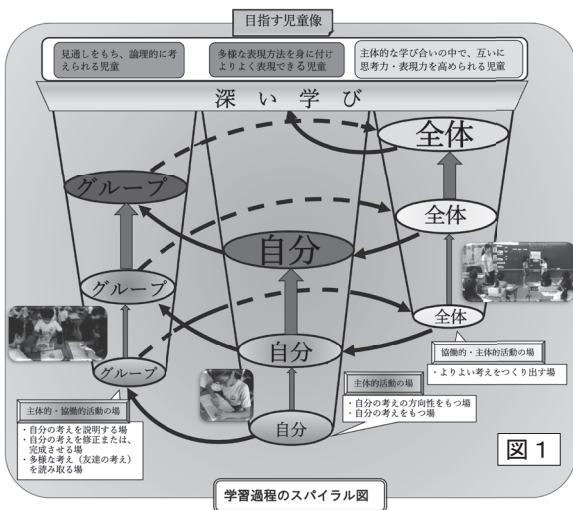
算数科におけるスパイラルを 研究の柱にした取組

北区 つばさ小学校 教諭 湯 沢 太 一



1 はじめに

本校は、平成28年度から教育課程の研究指定を受け、算数科を中心に「思考力・表現力の育成」を研究主題とした研究を行ってきた。実践に当たっては、副題を「アクティブ・ラーニングの実践を通して（算数科等）」として、「何を学ぶか」だけではなく「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という視点を重視し、「主体的・対話的で深い学び」を追究してきた。また、全体指導者として、平成28年度文部科学省の田村学先生と笠井健一先生より新学習指導要領の趣旨や算数科の理論と実践について御指導いただき、7名の各学年担当指導者による御指導の下、全学年で研究授業、交換授業等を繰り返すことで、日々の授業に根付かせていった。



2 研究の構想

研究を進めるに当たり目指す児童像を次のように設定し、学習過程と思考力・表現力のスパイラルを構想した。

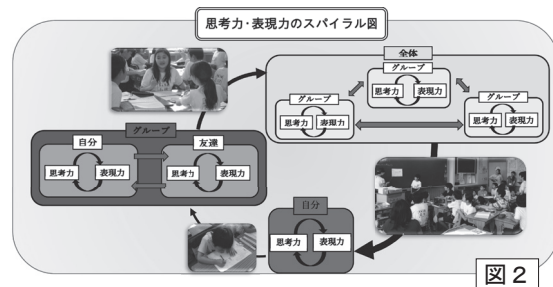
- 見通しをもち、論理的に考えられる児童
- 多様な表現方法を身に付けよりよく表現できる児童
- 主体的な学び合いの中で、互いに思考力・表現力を高められる児童

(1) 学習過程のスパイラル

図1のように、自分の考えをもつ「主体的活動の場（自分）」、多様な考えを取り入れて自分の考えを説明・修正・完成させる「主体的・協働的活動の場（グループ）」、よりよい考えをつくり出す場（全体）」をつなげ、深い学びを経て繰り返し学びの質を高める。

(2) 思考力・表現力のスパイラル

図2のように、個人・グループ・全体での思考・表現活動をそれぞれに充実させ課題を追究することで、自分の考えをよりよく表現し、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、より一層確かなものにする。



3 仮説並びに手立て

(1) 研究の仮説

学びのスパイラルを実践すれば目指す児童を育成することができるだろう。

(2) 手立て

手立て1 本時に関わる既習事項の明確化…領域ごとの系統性を踏まえ、本時の位置付けと既習事項、学習後の発展事項を明確にしてから、学習指導に当たる。

手立て2 言語活動の重視…算数科特有の言語を明確にして、繰り返し適切な指導を行い、児童が学習ツール（道具）として使いこなせるようにする。

手立て3 学習のねらいや内容に応じた場の構成…学習のねらいや内容に応じて、効率性や有効性を考え、「自分一人」「グループ」「全体」の活動の場を適切に配置・構成する。

手立て4 それぞれの場の思考活動・表現活動の充実…自分・グループ・全体の場で、それぞれ「何をできるようにするか」の観点を明確にして、思考・表現活動を充実させる。

手立て5 それぞれの場の思考活動・表現活動を通した学びの質の向上…それぞれの場の思考・表現活動を有機的に結び付けて、より深い学びにつなげる。

4 具体的な取組例

(1) つばさスタイルの授業の実践

算数科の特性や基本的な事項を踏まえ、研究の構想に基づく仮説や手立てに即して構成した授業を「つばさスタイル」と名付け、全学級で、このスタイルの授業を日々実践した。

(2) 週一回の授業交換の実践

週1回、授業者を交換して授業を行い、教師も児童も緊張感をもって授業に取り組むことで、授業の質の向上を図った。

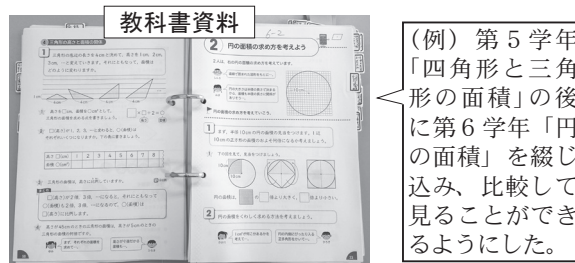
(3) 教材研究シートの活用

単元名、目標、既習事項、活用させたい算数言語、問題、課題、授業形態、それぞれの場の

活動、発問、まとめ等を記入したシートを作成・活用することで、どのクラスでも同じように授業が進められるようにした。

(4) 系統性を意識した教科書資料の活用

第1学年から第6学年までの教科書を内容ごとに整理した教材研究用教科書資料を作成し、活用することで、既習事項や発展事項を踏まえ、本時で身に付けさせたい力や学習の内容を明確にした指導に役立てた。



(5) 業前時間の活用

週2回の業前時間を「基礎基本学習の時間」として、基礎学力定着プログラムやドリルなどに取り組み、基礎・基本の定着を図った。

5 児童の変容・成果

○グループ活動の場では、課題解決に向けた話し合いが活発になり、積極的な表現や説明力の高まりが見られた。

また、友達と自分の意見を比べて思考を深め、友達の考えを取り入れたり、自分の考えに自信をもったりする児童が増えた。



また、友達と自分の意見を比べて思考を深め、友達の考えを取り入れたり、自分の考えに自信をもったりする児童が増えた。

○全体の中では、自信をもって話し合いに参加する児童が増えた。また、目標に迫る練り上げを通して、思考・表現力が高まり、よりよい解決を目指す態度が高まった。

思考・表現力が高まり、よりよい解決を目指す態度が高まった。



※本研究の詳細につきましては、インターネットにて「つばさ小学校」を検索していただき、「課題研究」の頁で御覧いただくことができます。